

「関西健康・医療創生会議 シンポジウム」の開催結果について

令和元年 10 月 31 日
イノベーション推進担当

文部科学省の支援を受け、関西 11 大学と創生会議が連携した「関西広域医療データ人材教育拠点形成事業」のキックオフとして、「関西におけるアカデミア連携による新たな医療人材の育成」をテーマにシンポジウムを開催し、当該事業の紹介をはじめ主要大学の人材育成の取組についての発表を行った。

記

- 1 日 時 令和元年 10 月 11 日（金）15:00～17:00
- 2 場 所 関西経済連合会 会議室
- 3 主 催 関西健康・医療創生会議
NPO 法人関西健康・医療学術連絡会
- 4 参加者数 約 170 名
(企業 63、アカデミア 47、病院等 11、行政関係等 49)



5 内 容

(1) 挨拶 【井村 裕夫 関西健康・医療創生会議議長】

- 健康・医療データの利活用については、データの必要性、重要性を理解して活用できる人材が必要。日本、関西ではこうした人材が不足しており、今回の文科省の支援を受けたプロジェクトを契機に、創生会議として、産業界、自治体、アカデミアの連携を進め、有用な事業となるよう人材育成を支援していきたい。

(2) 事業紹介

①「医療リアルワールドデータ活用人材育成事業について」【大江 和彦 東京大学教授】

- 電子カルテシステムの普及やデータ収集基盤の構築が進むなか、医療現場からのリアルワールドデータを適切に解析できる人材が求められている。
- 東京大学を代表とした当該事業では、データの特性や偏りなどのバイアスの理解・把握、データの標準化やクレンジングによるデータベースの再編成などの能力に加え、具体的な医療課題の解決に必要なデータ解析力などを備えた人材を養成することを目指して準備を進めている。

②「関西広域医療データ人材教育拠点形成事業について」【黒田 知宏 京都大学教授】

- 京都大学を代表とした当該事業では、データ活用基盤を適切に活用できる「基盤人材」、医療情報を適切に活用できる「活用人材」、そして医療倫理などの知識を有した「統制人材」の育成を図る。
- プログラムは医学研究科と情報学研究科に追加履修として設置する修士基本コースと関西健康・医療創生会議が窓口となる産業界等向けのインテンシブコースの2本立ての構成。インテンシブコースには、社会人向けに、今年10月から先行する半年1クールの社会変革型データ人材の育成コースなどの2コースを実施していく予定

(3) 主要大学による取組

① 「社会変革型医療データサイエンティスト育成プログラムについて」

【奥野 恭史 京都大学教授】

- 製薬企業におけるAI開発人材へのニーズを踏まえてプログラム開発を進めてきた。単なるデータサイエンティストではなく、社会変革を実現しうる人材の育成を目指している。
- 「情報・データサイエンス」に加え、「経営・社会変革」、「医学・生命科学」のカリキュラムで構成、個別に課題を設定したグループワークによる20hの実習を組み入れているのも特色。半年1クールで10月から1期目を開講

② 「大阪大学での取り組み」【松村 泰志 大阪大学教授】

- AMEDの支援を受け、阪大関連病院の電子カルテを結んだネットワークを構築し、臨床データや画像データを集めて、紐付けた上で分析できるような環境整備を進めている。
- 社会人も対象にした医科学修士コースに、臨床研究のほかデータ収集の仕組みや人工知能技術などを学ぶ「臨床データ研究プログラム」を開発し、人材育成にも力を入れていく。

③ 「神戸大学における医療人材育成の取り組み」【小林 大介 神戸大学准教授】

- 文科省の課題解決型高度医療人材養成プログラムに採択され、H30年度から本学MBAと医学部付属病院が連携し病院経営に係る人材育成講座を開講、現在2期目
- 医師、看護師、事務職員など医療機関での勤務経験のある社会人を対象に、医療経営人材の育成を目的に、医療統計分析の基礎知識やDPCデータ分析などのデータ関連プログラムを提供

6 まとめ

企業関係者、アカデミア、行政などから多くの参加があり、データサイエンス人材の育成についての関心の高さがうかがえた。

また、アンケートでは9割以上が有意義と回答があり、実際のプログラムへの参加や勉強会等の実施を希望する声があった。